

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和2年度第5回A部会		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和3年1月22日(金) 午後7時00分から午後9時00分		
開催場所	川西市役所4階 庁議室 (ウェブ会議システムにより開催)		
出席者	委員	藤本真里、加門文男、鈴木光義、乾美由紀、田中真、名木田絢子、三善知子、赤木牧子	
	その他		
	事務局	総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事 A部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、) やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p>3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

A部会テーマ

「（地域・市民活動に対して、）

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

本日の進行について

本日は、全体会での発表資料をもとに議論を深め、提言書の作成を進めていく
提言書の内容は、市民の思いや、市に対して『して欲しい、すべきこと』の提案が重要である
ので、念頭に踏まえて意見を述べてほしい

<スライドの情報共有画面より>

- ① 現状と課題
- ② 解決のためのマッチングカードづくり
- ③ カードによって得られる効果
- ④ 二次元コードの活用
- ⑤ 継続させる（根づかせる）ためのしかけ
- ⑥ カードの設置場所
- ⑦ 年度末までの検討課題

(1) 解決のための待ッティングカードづくり

議論の内容

①合同ワークショップについて

→ワークショップの開催時間は2時間。そのうち待ッティングカードづくりの時間は、40分とタイトであるので、一つの団体について話し合う時間が短くなるがその形でいいか
→模擬ワークショップの経験からすると、「時間が足りない」感じの終わり方で、浅い議論となる。マッチングするにも想定の仕方が各々あるので難しい

→私の考えは、その日は1グループのみに待ッティングカードを作ってもらい、もう一つのグループは客観的にアドバイスする体験をしてもらうイメージであった。しかし、セッティング日程等々を考えると難しいかもしれない

→時間を十分にとると、1グループを詳しく丁寧にできてみんなにとってわかりやすいカードづくりになると思う

→単体グループで第三者の進行役がいるイメージ

→ファシリテーターがいないと、集まって挨拶して終わりになる気がするので、第三者の視点は必要だと思う

②カードづくりのやり方について、ア～ウのどの方法がよいか意見をのべてほしい

ア 従来どおり付箋に書いて貼る形式

イ 用紙を付箋のように使って床に並べる形式

ウ ①、②あたりのことは、こちらから指定はしない

→太マジックで大きく書くとわかりやすい

→参加者がA4用紙に書く速度で進めることが、じっくり進められるポイントだと思う

③団体の参加人数について

→何人ぐらいで想定するかは、団体の規模によると思う

→現状は、何人ぐらいがいいという程、実例がない

→人数制限は、興ざめする。少ないと困る

→提言書には、基本的な提案書にして細かな記載は必要ないと思う

→例えば、1グループに4~5人が望ましい

(2) カードによって得られる効果

→特に議論のポイントはなく、資料は2枚で十分である。文章が長いと読んでもらえない

→先日の全体会での報告を聞いたとき、非常に楽しく感じたので、これでよいと思う

(3) 『二次元コードの活用』

① 動画作成について、どのような内容がいいか、動画内容のイメージとしてはア～ウの提案があった

ア 団体のインタビュー形式

イ ワークショップの雰囲気

ウ カードの作り方

→Gメール取得や動画サイトのアカウントを取得する作業が必要であり、またその管理をどうするか

→提言書にはQRコードの作成方法を提示するのみでよいと思う

→川西市のアカウントを使用した動画サイトに限定公開できればそれを提言書にのせるのはおもしろいと思う

(4) 継続させるためのしかけ

議論したいポイント

『委員の任期はこの先終了。その後、方法の提示だけで続けられるか』

①市のマッチング制度に組み込んでしまう

→（仮称）マッチング隊として、有償であれば関わり続けられるかもしれない

→地域の中で、継続につながる広がりや仕掛けるために、模擬ワークショップの経験をさせて頂いたお礼として、活動を続けて行こうと思う

→自分が地域活動する中で、カードづくりのサポートができることは、有意義な活動になると思う

→ひらいてむすんでA部会を存続させて、別の形での定期的な集会

→次期参画と協働のまちづくり推進会議に現在のひらいてむすんでA部会メンバーの誰かが加入する

②数珠つなぎ式で、お困りごとを持ち込んだ団体が、次のお困りさんのサポートする

(1)サポートする団体のイメージはどんな感じか

→正体不明の団体がコーディネートするよりも、川西市公認の団体がサポートすると安心だと思う

→例えば、防災に関するイベントなら防災士が派遣されるなど、専門性のある団体

③他の意見

→報告できる場所があれば、継続する楽しみになる

→継続する効果として、イベントごとにそれにふさわしい人が欲しいというカードを用意して配布することだと思う

→次へつながるもの、実践できる何かの形を提案して終了すればよいと思う

(5) カードの設置場所

・（議論の前に）全体会の会議で提案頂いたことで、公共施設の中に学校が抜けていたので追加する

議論のポイント

→民間施設に設置するのは難しいので、市の公認団体の存在が必要だと思う

→民間施設に対するメリットを提示する必要がある

ex. 社会貢献、地域貢献、およびお店の知名度が上がるなど

→募集対象に合わせた設置がキーワードであって、その地域のスーパーや公民館など、その場合事務局はどうするのが課題である

→範囲を広げて設置した場合は、市としては規模や分量によるが、できるだけ調整などのサポートはさせていただきたい

→実態のない状態で、公共的な答えが出ないのは当たり前であるので、こういう方向性があるという意見としてまとめてはどうかと思う

(6) 他、提言書に追加するものについての確認

→カードづくりの仕組みが広がればいいなという「あなたが対象ですよ」と感じさせる委員全員のコラムを入れる

(7) 今後の作業イメージの確認

画面共有のパワーポイントの資料は、プレゼン用で細かい説明がないので、前後を充実させて、初めて見た人に「何故このようなことを言っているのか」わかるように提案書にいれないといけない。資料には、現状と課題となる盛り込むべき内容を入れて、全体の内容はこうなるという提言書の素案ができるようにしたいと思う。

次回までに今期の推進会議の満期終了後、市は、住民はどうするべきか、（仮称）マッチング隊はどうするかなどのアイデアを考えていただきたい。

3 閉 会

○事務局

次回は、2月12日（金）19時からZoomで開催

